

| | |
|----|----------------|
| 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|----|----------------|

| | | | |
|----------------|----------------------------|---|----------|
| ○事業所名 | 門真市立こども発達支援センター 放課後等デイサービス | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 3月 8日 ~ 2025年 3月 31日 | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 1 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 3月 8日 ~ 2025年 3月 31日 | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 4月 8日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 専門職による個別療育を受けることができ、子ども一人ひとりに合わせたオーダーメイドの療育を提供することができる。 | 子どもの発達や成長に応じて、支援内容を支援者が工夫して提供している。その日の体調や気持ちに合わせ、臨機応変に対応することができる。保護者の要望や主訴を踏まえて個別支援計画を立案し、専門職も参加して多角的な視点で療育を実施し、子どもだけでなく保護者にも達成感を感じられるような療育を行っている。 | アセスメントや記録を大切に、定期的に再評価を行うことで、子どもの発達やニーズの変化に柔軟に対応していく。楽しい支援内容につながる為に、工夫やアイデアを出せるよう、支援者は学ぶ姿勢を惜しまない。また支援内容の職員間での共有を行い、それを支援に反映させていく。 |
| 2 | 保護者様毎回顔を合わせ、当日の様子と今後の支援について話す時間を設けている。 | 保護者の要望と本人の興味・関心を織り交ぜながら、目標に向かって成長できるよう、支援内容や課題、教材などを工夫している。また、家庭や学校での様子を確認し、集団生活の中で汎化できるよう療育につなげている。 | 保護者が抱える問題や悩みに対して、こちらから解決策やアドバイスを提供するだけでなく、一緒に考える機会を持つことでペアレントトレーニングを充実させていく。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|--|
| 1 | ご利用希望者の方が多いため、支援が必要とされるお子さん達にご利用いただけない場合がある。 | 早期療育の重要性を理解していただき、支援を提供できるよう周知活動を行っていく。 | お子さんの可能性を引き出すサポートを行い、保護者とお子さんにとって優しい居場所となるよう努めていく。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 門真市立こども発達支援センター 放課後等デイサービス

公表日 年月日

利用児童数 年月日 5

回収数 1

| | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|---|---|----|---------------|-----|-------|-----|------------|
| 環境・ 体制 整備 | 1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 2 職員の配置数は適切であると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| 適切 な 支 援 の 提 供 | 5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。 | 1 | | | | | |
| 保 護 者 へ の 説 明 等 | 12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。 | 1 | | | | | |
| | 13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。 | 1 | | | | | |
| | 14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。 | 1 | | | | | |
| | 15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。 | 1 | | | | | |
| | 17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。 | 1 | | | | | |
| 19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。 | 1 | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|---------|----|--|---|--|--|--|--|--|
| | 20 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 21 | 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。 | 1 | | | | | |
| | 22 | 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| 非常時等の対応 | 23 | 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。 | 1 | | | | | |
| | 24 | 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。 | 1 | | | | | |
| | 25 | 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| | 26 | 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。 | 1 | | | | | |
| 満足度 | 27 | 子どもは安心感をもって通所していますか。 | 1 | | | | | |
| | 28 | 子どもは通所を楽しみにしていますか。 | 1 | | | | | |
| | 29 | 事業所の支援に満足していますか。 | 1 | | | | | |

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | 門真市立こども発達支援センター 放課後等デイサービス | | 公表日 | | 年 月 日 | |
|------|---|--|---|------------------------------|--|--|---|
| | | チェック項目 | | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 |
| | | 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | | 4 | |
| 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。 | | 4 | | ・部屋の構造化や、個別に適した自立課題の作成に工夫を重ねている。 ・フォローを含む役割が明確である。 | 今後に向けては利用者数の増加が見込まれるため、部屋の確保と環境の整備が必要である。 | |
| 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | | 4 | | ・視覚的に分かりやすい構造化を心掛けている。 ・アセスメントに応じて、視覚支援やスケジュール、ワークシステム等を適切に活用できている。 | | |
| 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | | 4 | | 心地よく、楽しく、安心して過ごせるよう工夫している。 刺激となる物の配置は行わず、運動や机上課題等、それぞれの課題に応じて使用する部屋を変更している。 | | |
| 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | | 3 | | クールダウンできる空間を用意し、その時々状況に応じてスケジュールの内容を変更している。 | | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | | 4 | | 定期的に担当者会議や事例検討、報告会等を実施しており、常に目標を振り返り、他者の意見を受け入れる体制が整っている。 | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | | 4 | | 来訪時には必ず保護者と担当職員が話す時間を設けており、その内容は担当者間で共有されている。 | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | | 4 | | 定期的に多種多様な会議を実施している。会議の場では、職員がざっくばらんに意見を言い合える雰囲気形成されている。 | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | | | 4 | | 今後、行う予定である。 |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | | 3 | 1 | 特性理解を深めるための研修が必要である。 職員の意欲をより高めるための仕組みづくりも必要である。 | 専門性を重視した内容、さらに深く掘り下げた研修を提案し研修受講につなげていく。 |
| 適切な | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | | 3 | 1 | プログラムは根拠に基づいて計画している。また対象児童にはスケジュールを通して、保護者には保護者ノートを通して実施内容を提供している。 | ガイドラインに沿った形でのプログラムとなっているが、更に分かりやすく伝えられるよう工夫をしていく。 |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | | 4 | | 担当職員の聞き取りや専門職のアセスメント等、様々な視点から計画を立てている。計画作成時には、担当者会議を開催している。 | PEP-3を受けてもらうことが、アセスメントの基準として有効であると考えられる。 |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | | 4 | | 個々の実態を把握している。 | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | | 4 | | 計画が決定し、担当職員による保護者への説明が終了した際にも、改めて情報を共有して。実施内容は他のスタッフに報告することになっており、軸がズレない支援を心掛けている。 | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | | 4 | | 量的・質的なさまざまな角度から児童を評価することに努めている。専門職として、妥当性のある検査バッテリーを心掛けている。 | |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | | 4 | | 目標ゴールを明確に設定した上で、それぞれの項目において具体的な動きを考え、まとめている。設定は担当者会議等の場で行っている。 | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | | 4 | | 目標ゴールを明確に設定した上で、それぞれの項目において具体的な動きを考え、まとめている。設定は担当者会議等の場で行っている。 | |

| | | | | | | |
|--------------|--|--|---|---|---|--|
| 支援の提供 | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 4 | | 前回達成したことや困難であったことを踏まえ、児童にとって負担にならないような変更（負荷も含む）を加えつつ、能力向上の工夫を行っている。 | |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 4 | | 複数の大人と集う活動は頻繁に行うことが可能であり、児童の社会性へのアプローチの場面は確保されている。 | 集団活動は二ードや必要性等の観点から未実施。 |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 4 | | 役割は明確に示され、セッション前の報告等も徹底できていた。 | |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 4 | | その都度、振り返り、反省、評価を繰り返している。 | |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 4 | | 量的・質的観点から記録を取り次回のセッションに生かすことができている。 | |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 4 | | 期間を決め、担当者会議を実施している。その場で見直しや継続等について話し合うことができている。 | |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。 | 4 | | | 地域交流の活動には課題が残っている。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 4 | | できる人は本人と話し合い、目標を決めている。児童ごとの知的レベルに合わせた自己選択（行動・サイン・絵カード・ことばの枠組み等）の練習を行っている。 | |
| | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 4 | | 児童発達支援管理責任者や担当職員等が参画している。 | |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | 2 | 2 | 保育・教育機関とは、保育園や学校側の担当教諭・支援学級教諭との意見交換、見学交流等を行っている。 | 医療との連携には工夫が必要である。今後必要に応じて協力体制を構築していく。 |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 3 | 1 | 定期的に話し合いの場や見学交流等を実施している。 | 量的に十分ではない。家族からの情報が主である。今後、連携を図れるよう関係構築が必要である。 |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 3 | 1 | | 連携強化に努める必要がある。児童発達支援、幼稚園や保育園とも直接連絡が取れるような関係構築に努めていく。 |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | 1 | 3 | | 必要性・二ードの観点から実施を先送りしている。障害福祉サービス移行期の利用児は対象ではない。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | | | | |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | | | | |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | 3 | 1 | | 部会の事務局を行っている。今後も自立支援協議会への参加を積極的に進めていく。 |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 4 | | | |
| 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | | 4 | | ご家族の希望も募りながらペアレントトレーニングや研修の機会を持てるよう検討していく。 | |
| | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 3 | 1 | | 変更点がない時でも個別支援面談時などに説明希望がないか確認し、再度説明を行っている。 |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 4 | | | |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | 4 | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|---|----------------------------------|--|--|
| 保護者への説明等 | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 4 | | 家族と話をする機会は毎回設けている。専門職を中心に悩みへのアドバイスを行っている。 | |
| | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | 1 | 3 | | 中核機関として実施する必要がある。 |
| | 41 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 4 | 0 | 日頃から何かあった場合は、迅速かつ誠実に対応するよう声掛けしている。 | |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。 | 3 | 1 | | 広報誌の発行を用いた情報発信に努めている。定期的に発信してはいるが、より情報が伝わりやすく工夫していきたい。 |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 4 | | PCのセキュリティや文書の保存等は、常日頃から徹底している。 | |
| | 44 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 4 | | コミュニケーションに関わるすべての行為において、視覚呈示や姿勢等を徹底している。 | |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 1 | 3 | | 地域の方々との交流機会を大切にし、地域行事にも参加していきたい。 |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 4 | | マニュアルを確認しながら啓発研修を受ける機会がある。 | |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 4 | | 月に1回、避難訓練を実施している。 | |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 4 | | 健康状態等は、保護者への聞き取りや保護者ノート等を活用して毎回把握している。 | |
| | 49 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 4 | | | 来年度からは提供が始まるため、対応を徹底する必要がある。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | 3 | 1 | | マニュアルの確認し、安全管理を適切に行い、安心できる環境のもと支援を行っている。 |
| | 51 | 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | 3 | 1 | | 今後も適切な安全管理のもと支援を行い、安全確保に関してもご家族に説明、周知を続け安心して利用できるように努めていく。 |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 4 | | ヒヤリハットがあった際には、ファイリングして周知している。 | |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 4 | | 適切な情報の提供と学習できる場は設定されている。 | |
| 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 3 | 1 | 説明が足りていない印象がある。ご家族ごとに明確に示す必要がある。 | 職員の虐待防止及び身体拘束に関する意識向上に努め、マニュアルに則った対応が取れるようにしていく。また、やむを得ず身体拘束を検討する際は、ご家族への十分な説明、了承を得て計画への記載を行う。 | |